

時の動き

高射砲陣地跡と園児たち

社会福祉法人楽山会 常務理事 柴田 直樹



椎の実子供の家戦没者慰霊祭（2月17日）

戦没者慰霊祭・平和祈念祭が

毎年2回開催される

椎の実子供の家では、毎年2月17日と8月15日に、戦没者慰霊祭・平和祈念祭が園庭にある平和祈念碑の前で行われています。この地に、東部第1903部隊調布隊戦友会が1977年に石碑を建ててから今日まで、3歳以上の園児も参加して続けられています。

高射砲陣地も米軍の標的に

75年前の1945年2月16日か

ら3日間、アメリカ軍の硫黄島上陸作戦と連動して、空母16隻、艦載機1200機の大部隊が関東地方の飛行場や航空機工場などを徹底的に銃爆撃してきました。ここ高射砲陣地（口径7・5cmの砲6門配備）は眼下に調布飛行場、近くに中島飛行機武蔵製作所や三鷹研究所があり、グラマン戦闘機の編隊がこれらを狙って襲来し、2月17日の交戦で、兵士4名戦死、多数の負傷者を出しました。

1973年平和のシンボル

保育園を開設される



社会福祉法人楽山会創設者
鈴木平三郎の銅像



高射砲跡地にて

1957年当時三鷹市長であった鈴木平三郎(当法人創設者)が永久平和のシンボルとして高射砲陣地跡を保存しようとして、瓦礫の山になっていたこの土地を買って移り住み、1973年に保育園を開設しました。鈴木は軍医として召集され、中国戦線で6年間悲惨な苦労を舐めながら生きて帰った経験から、「平和を守り抜くことは、戦場で戦う勇者より更に一層勇氣と決意が必要である」と調布隊戦友会報に記しています。

戦友会も語り継ぐことができない

戦友会は30年間の活動期間中、園児たちに戦争の話をしたり、バスハイクを企画したりして交流をしてきました。今は戦争を直接体験した人たちが語り継ぐこともできなくなりました。このため、当法人では、8月15日の近くになると、戦友会の人たちの残し

た体験記録から園児たちに戦争の話をし、戦争の悲惨さと「二度と戦争をしてはいけない」ということを考えてもらおうとしています。

園児の素朴な質問と

語り継ぐための貴重な遺産砲座

園児からは、「何故、人は戦争をするのですか」という本質的な質問があったり、「戦争はこわい」といった感想も聞かれます。園児なりに感じることはできるのだと思います。

高射砲の砲座4基が今も園庭に残され、数多くの体験記録が残されていることは、ここでのようなことが起こったのかを園児たちに想像させてくれる貴重な遺産です。当法人では、永久に保存してまいります。

(しばた なおき)